

皇紀2600年記念隧道工事考案懸賞募集

懸賞募集の趣旨

新東亞建設の大業は、我日本帝國に課せられた一大使命であります。支那事變の進展と共に我土木工事も舊殻を脱して眞に新東亞建設の意氣に満ち溢れたものでなくてはなりません。

新春、爰に光榮ある皇紀2600年を迎へまして、工事報國を念願とする我が工事畫報社は先づ記念事業の一として隧道工事に關する新工法を懸賞募集する事となりました。懸賞募集の條件は甚だ簡單なものでありますが、新東亞建設の工事技術界に寄與する處は大なるものがあると信じます。

振つて各位の御支援を乞ふ次第であります。

課題

『延長64杆の海底隧道を掘鑿する工法』

日本は山國であり又海國であります。此處に於て道路を通ずるにも、鐵道を通ずるにも隧道工事は益々必要となります。而して我國の隧道は今や國の東西に於て大陸へ結ぶべき海底隧道の必要をさへ叫ばれるに至りました。技術者以外の先覺的識者は此等の問題に就て既に種々なる案を有してゐるのであります。今日に於て工事關係の技術者が豫め此等に就て考案を有する事は必ずしも早計でないのであります。

延長64杆の海底隧道を何處に開設するかは未定であります。而して總ては假定であります。大體次の條件の下に案を求め度いと思ひます。

最大水深は100米位の海底岩盤の中を通ずるものです。64杆の兩端陸上から掘鑿する以外に堅坑を設置する場所はありませぬ。

(詳細工事畫報1月號参照)

【1】 隧道の断面を決定する事。

(詳細工事畫報1月號参照)

【2】 隧道掘鑿の爲に堅坑を設置する方法。

(詳細工事畫報1月號参照)

【3】 海底隧道掘鑿方法。

(詳細工事畫報1月號参照)

【A】 掘鑿には如何なる設備をしたら良いか。

工事の段取とか機械、設備等に就て、長大なる海底隧道掘鑿用としての特種の新考案を希望します。

【B】 掘鑿の方法に就て。

試掘坑又は本隧道を一氣に進めるとすれば、先づ導坑式に掘進して、後から切替げるか、或は本隧道より別に水抜坑としての試掘坑を先に掘鑿するか、此等は實際に就ての研究でないと名案は出ないかも知れませんが、實際に就ての計畫でさへ予定通りに行かないのですから、紙上の計畫案としては一切を自由なる假定の下に考案されん事を希望します。

【C】 材料や人員の配置等に就ての考案。

隧道掘鑿と云ふ事は暗い坑内で陰鬱な工事を操縦すと云ふ様な在來の組織では駄目なのです。延長64杆の海底隧道と云ふ様な大工事は、明朗に愉快に工事に従事する様な組織でなければなりません。

【D】 以上を總括して、總ての科學的綜合技術に依り、明朗な而して日本が大陸へ結ぶ文化の大劃期的工事にふさはしい工法を得たい希望です。

懸賞規定

1. 上記課題に對し、1,2,3, A, B, C, D.の各項に最も良く適合せる解答を審査して入選等級を決定します。
2. 應募は隧道工事の經驗の有無を論ぜず、土木に關係ある技術者ならば何人でも應募できます。
3. 附圖は白紙に墨書し(縮尺自由)説明文は明瞭に認められたし。用紙は自由。回答文は長短自由。
4. 締切は昭和15年6月末日とし、入選發表は昭和16年1月號工事畫報誌上とす。
5. 審査及び入選の決定は工事畫報編輯部及び工事畫報社工事研究會に於てなす。
6. 入選は
1等 1人 賞金 100圓
2等 2人 同 50圓
3等 5人 同 20圓
7. 賞金は入選發表と同時に現金を贈呈す。
昭和15年1月 東京丸の内3の6

工事畫報社